

エコーネットシンポジウム

2022年3月11日（水）

ECHONET2.0戦略指針



ECHONET

一般社団法人 エコーネットコンソーシアム
代表理事
朝日 宣雄

ECHONET Liteの一層の普及に加え、
「ECHONET 2.0」の実現に向けた活動を精力的に推進してまいります。

1997年12月～2011年6月

2011年6月～2018年12月

2019年～

1997年
コンソーシアム
創立

ECHONET規格の
策定と普及活動

ECHONET Lite規格及びAIF仕様
の策定と普及のための活動
<ECHONET 1.0>

IoT住宅・IoTオフィスの普及
Society 5.0に貢献する活動
<ECHONET 2.0>

2002～各社から
ECHONET対応
家電発売

2000
ECHONET規格
Ver1.00公開

2008～
ECHONET
国際標準化

電力供給のため
HEMSに
注目が集まる

2011
ECHONET Lite規格
Ver1.00公開

2012
ECHONET Lite
HEMS標準IFに推奨

2016
ECHONET Lite AIF
第三者認証開始

2018年
ECHONET 2.0
ビジョン発表

2018
ECHONET Lite
Web API ガイドライン
Ver1.00公開

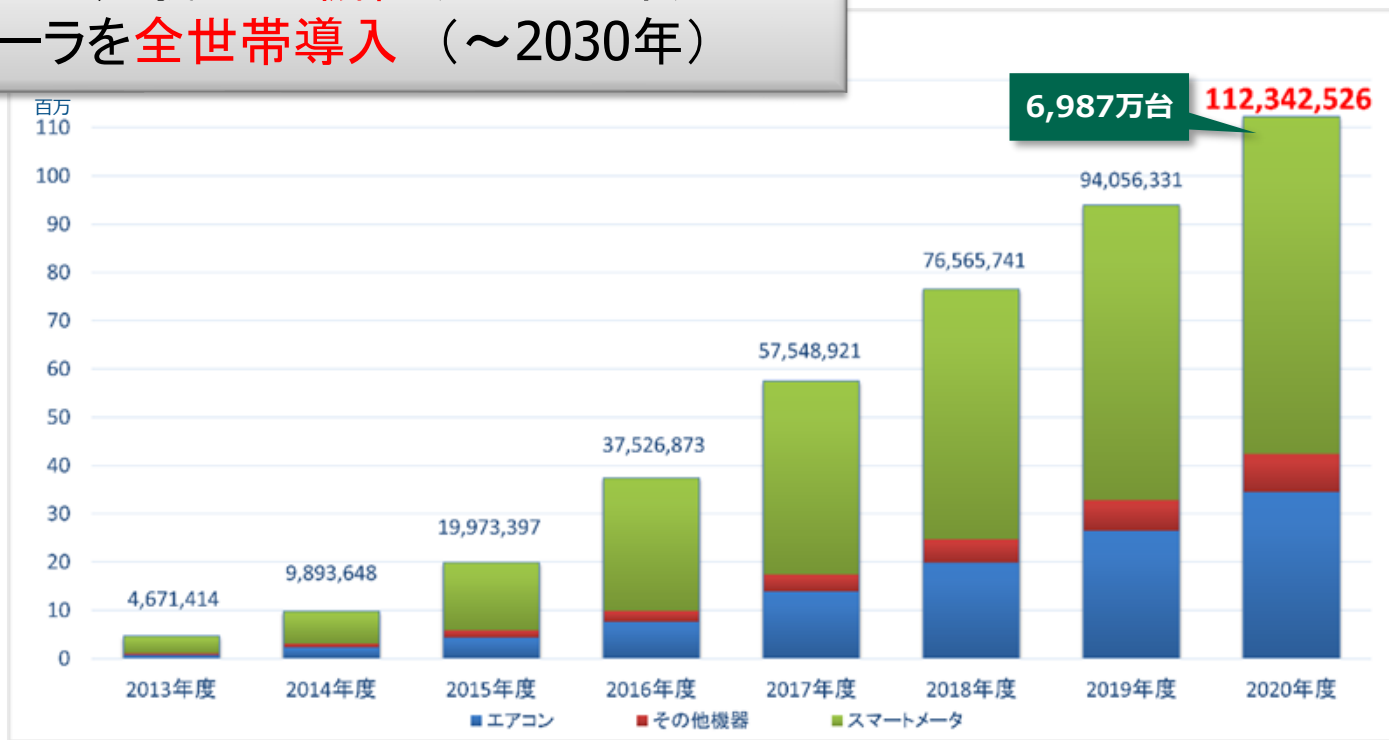
2020
ECHONET Lite
Web API ガイドライン
API仕様部Ver1.10
機器仕様部Ver1.20

2022年
ECHONET 2.0
戦略指針発表

2021年
ECHONET Lite
規格制定10周年

・機器の拡張と、
サービス連携の拡大
・秩序ある
協創空間の実現

ECHONET Lite実装機器: **1億台** (～2020年)
 機器オブジェクトの定義: **200機種** (～2025年)
 ホームコントローラを**全世帯導入** (～2030年)



ECHONET Lite搭載機器の出荷/設置/設置予定台数累計

電力データの活用に向け、次世代スマートメーターや分散型電源の電力活用に向けた仕様策定に積極的に取り組んでいます。

- ・ 次世代スマートメーター：Bルート※通信方式への提案（ECHONET Liteの継続適用とWi-Fi追加）
- ・ 分散型電源：電力活用に向けたクラス規定の仕様策定

※Bルート：電力スマートメーターと宅内機器の通信経路

■ 電力スマートメーターの普及

第1世代

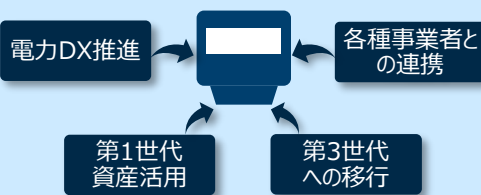


数年内に
全国設置

次世代（第2世代）

基本仕様策定中

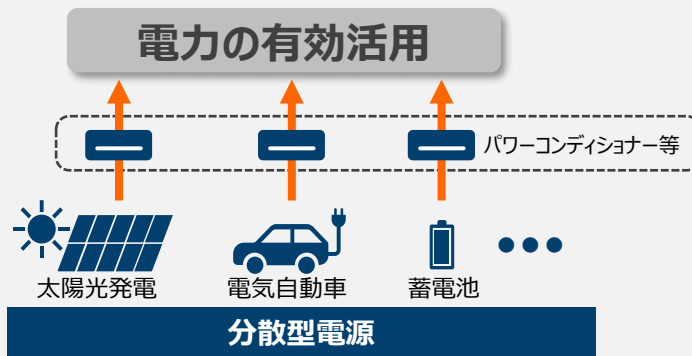
（次世代スマートメーター制度検討会）



様々な視点から検討中

■ 分散型電源の電力活用に向けて

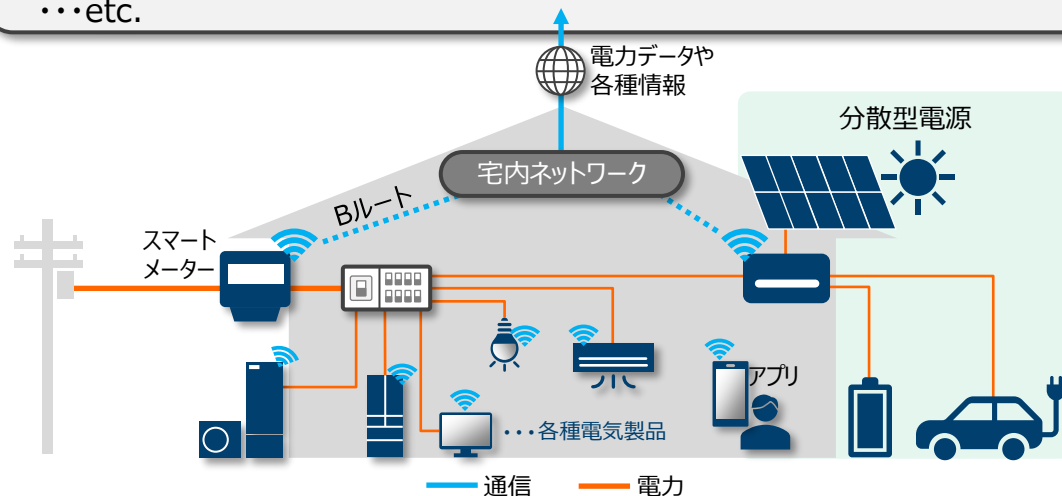
特定計量制度(2022年4月施行予定)を踏まえ、分散型電源の電力を活用するためのクラス規定を策定中



カーボンニュートラルへの貢献

オープン化された電力データや各種情報と分散型電源電力の利活用

- ・ レジリエンスの強化（災害時等における状況把握）
- ・ 系統全体の需給の安定化（VPP）
- ・ 需要家（エンドユーザ）利益の向上
- ・ 電気の取引や調整を行うアグリゲーションサービス
- ・ 需要家がプロシューマとして余剰電力を取引するためのプラットフォーム提供ビジネス
- ・ 電気自動車充放電プラットフォーム
- ・ …etc.



ECHONET 2.0

新サービス創造によるSociety 5.0の実現

快適
生活支援
サービス

モバイル
サービス

エネルギー
マネジメント
サービス

機器リモート
メンテナンス
サービス

ヘルスケア
サービス

セキュリティ
サービス

Webへの拡張とサービス連携の拡大

IoT住宅の普及

IoT店舗やオフィスの普及

ECHONET 1.0

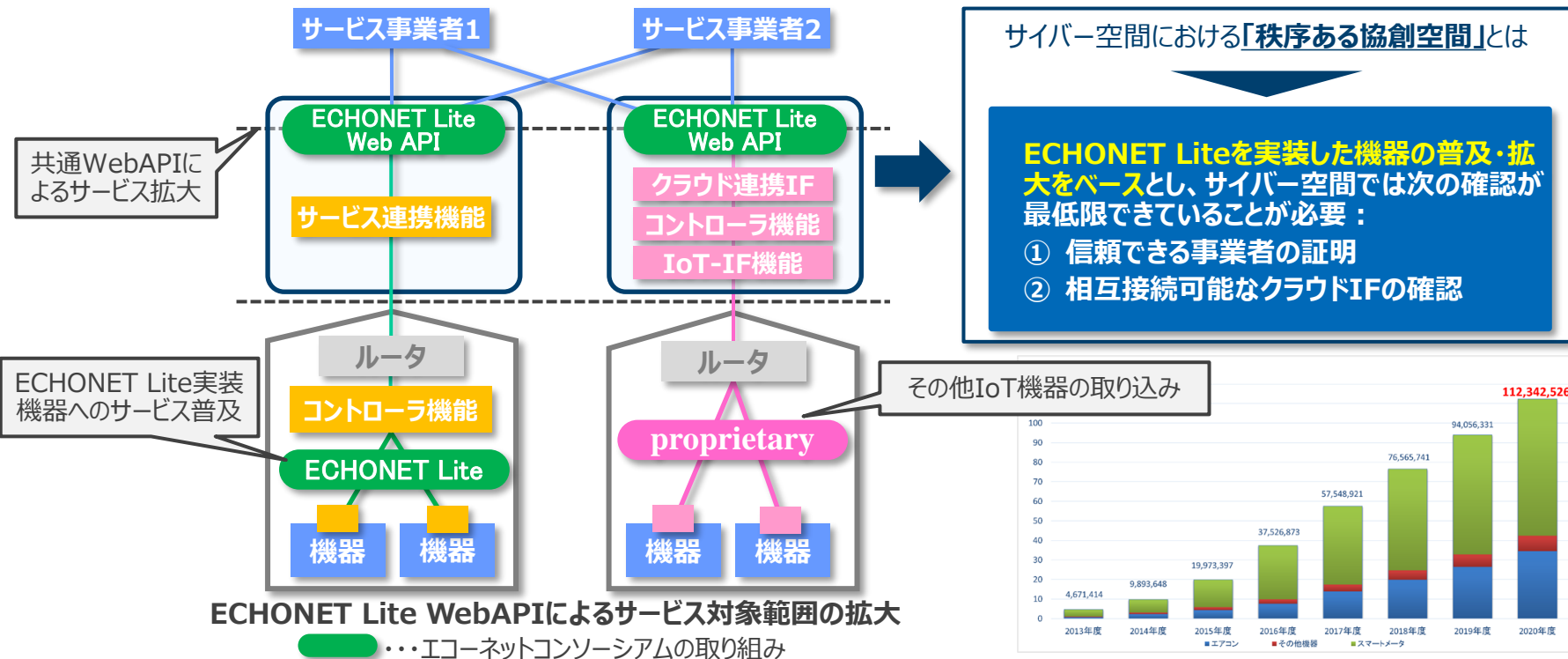


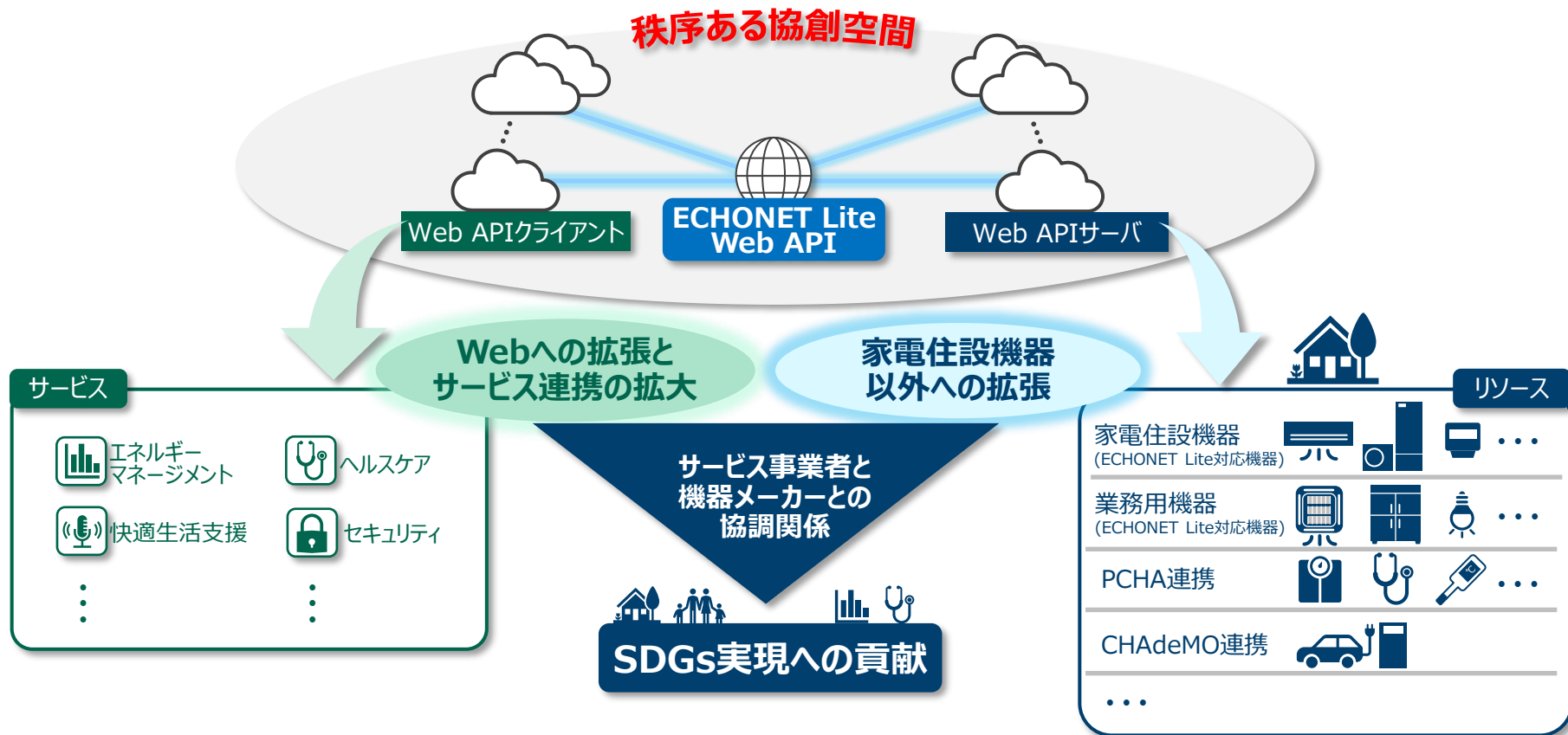
ECHONET対応機器の拡大（1億台を超える機器）

家電住設機器
以外へ拡張

健康機器
業務用機器

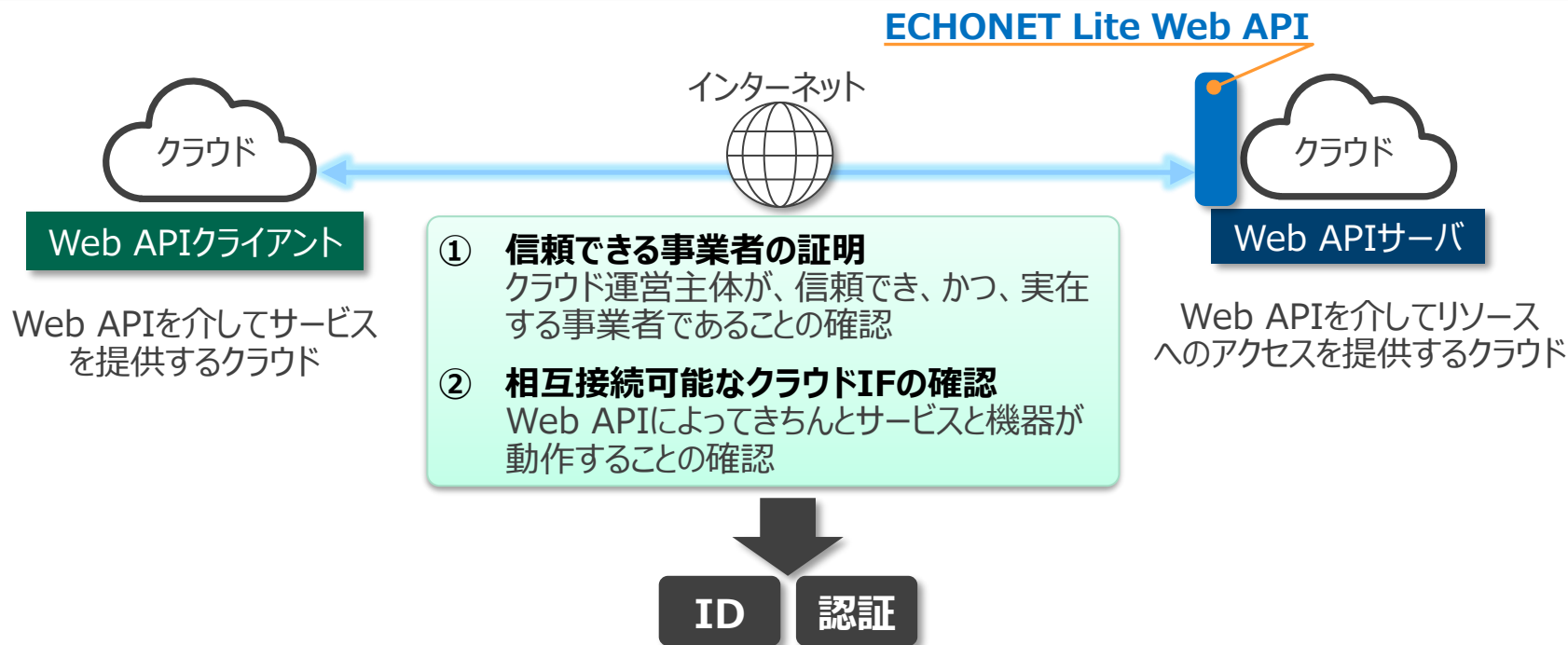
ECHONET Lite実装機器やECHONET Lite Web APIを活用したサービスの普及・拡大に向け、「秩序ある協創空間」の実現を推進していきます。



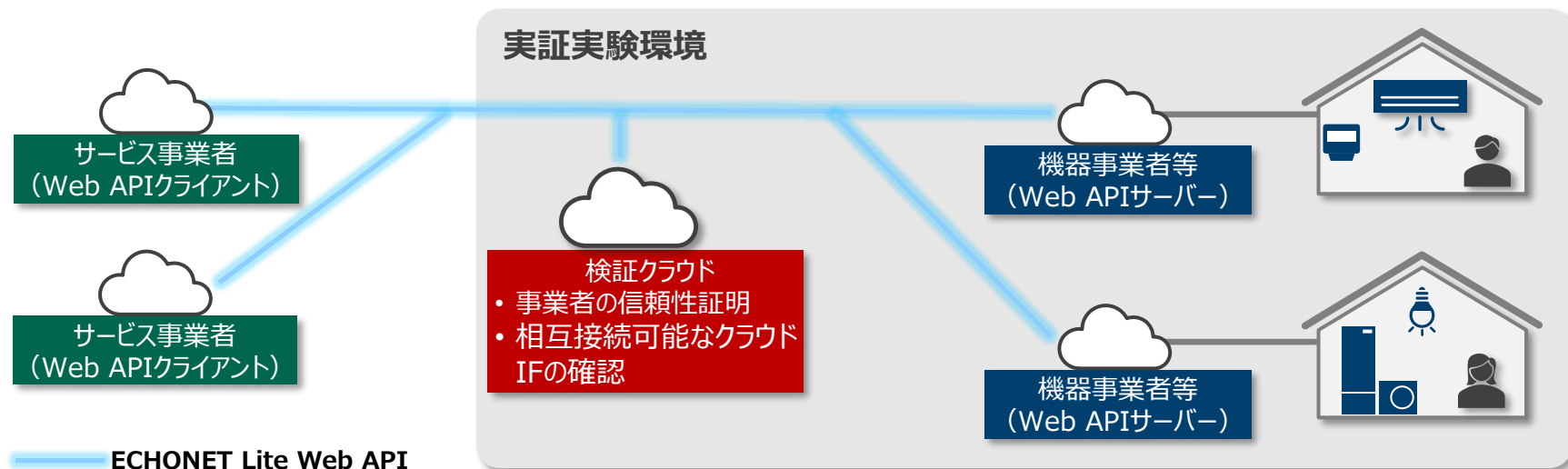


秩序ある協創空間の実現に必要な①、②の仕組み作り

- ①信頼できる事業者の証明
- ②相互接続可能なクラウドIFの確認



- 「秩序ある協創空間」の実現に向けて、実証環境の構築を検討
- 具体的には、信頼できる事業者の証明や、相互接続可能なクラウドIFの確認を行うための「検証クラウド」を構築し、実証環境の展開を想定
- サービス事業者は、機器事業者を介して、実証に参加許諾いただいたユーザの機器を制御



※検証クラウドでサービス事業者を確認した後、サービス事業者と機器事業者間で直接やり取りを行う

- ECHONET Lite Web APIの本格展開を見据え、ECHONET 2.0の新たなロードマップを策定。
- 機器の拡張とサービス連携の拡大の両輪で、新しい付加価値創出による豊かで持続可能な社会を目指していきます。

■ ECHONET 2.0 新ロードマップ°

基本ロードマップ°

- ECHONET Lite実装機器：1億台(～2020年)
- 機器オブジェクトの定義：200機種(～2025年)
- ホームコントローラを全世帯導入(～2030年)

達成



サイバー空間 拡張ロードマップ°

- ECHONET Lite Web APIによるサービス事例：50事例(～2025年)
- ECHONET 2.0によるサービスで全世帯をカバー(～2030年)
- ECHONET 2.0によるSDGs実現への貢献

